

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400146
法人名	株式会社ウキシロケアセンター
事業所名	いこいの里 宇佐町
所在地	福岡県北九州市小倉北区宇佐町1丁目9-36
自己評価作成日	平成30年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成30年11月26日	評価結果確定日	平成31年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では「自分の親だったら」と考え、家庭の延長線上にある施設運営を行なっています。入居者様個々の状態に合わせ、食器拭きや掃除等できることを活かし役割を担って頂くことで、生活に対する自信が持てるよう支援に努めています。体操や歩行運動だけではなく、トイレや洗面への移動等、生活動作において自然と運動ができるよう配慮しており、その成果として、現在100歳を超える入居者様も移動は歩行をされています。職員全員が入居者様一人一人の状態を容を把握し、医師、看護師と情報の共有を行ないながら連携を深め、入居者様の体調管理を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいこいの里宇佐町」は、中心市街地にも程近く、昔ながらの商店街や住宅が立ち並び一角に位置している。町内会長や地域包括支援センター担当者の出席する運営推進会議では、事業所の取り組み状況を共有し、地域の課題についても話し合いが行われている。職員の働きやすさを重要視し、ワークライフバランスへの取り組みは行政より表彰も受けている。管理者・職員は日常の関わりを大切に、体操や歩行訓練、立ち上がり訓練等、個別の機能維持・活用に向けて日々奮闘している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念、良い老人ホームの定義をもとに職員全員が目標を持ち、ベクトルを合わせながら業務に努めている。	法人として、企業理念や使命、未来像、信条、行動指針等を掲げ、各事業所が持ち回りで毎月のスローガンを作成している。毎月の唱和や新人研修の中で共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地域の飲食店へ食事に出掛けたりしている。地域社会の一員として入居者様の社会が開けるよう努めている。	事業所は中心市街地にも近く、運営推進会議の中で、地域のゴミ問題やカラスの被害について検討されている。市民センター行事や小学校の納涼祭、敬老会等への参加を通じて、地域との交流機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、地域活動に参加し、認知症についての理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での現状や問題点を報告し、意見を伺い、職員間で情報の共有を行っている。	18時から開催される運営推進会議には、入居者や町内会長、地域包括支援センター担当者の出席を得ている。事業所の運営状況や地域の課題について話し合いが行われ、事業運営に活かせるよう取り組んでいる。	現状として家族の参加が得られていないため、今後のスケジュール調整や働きかけが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターや町内の方々を交えて運営推進会議などで意見交換を行っている。生活保護課とも連携を図り、入居者様の情報共有に努めている。	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者の出席を得ている。不明な点の問い合わせや生活保護課との連携については、法人として対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関連施設全体で研修を行い、職員全員で身体拘束について話し合いを行なっている。また、運営推進委員会でも身体拘束について協議を行っている。玄関も施錠せず開放し、いつでも出入り出来、見守りも充実できている。	内外の研修参加機会が確保され、内部での伝達に努めている。指針の作成や委員会の設置、運営推進会議の中での報告等により、現状を振り返りながら適切な関わりについて共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて毎年学習を行なっている。職員間で問題点等しっかり話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や管理者ミーティング等で権利擁護や成年後見制度について学習しており、必要時は活用できるようにしている。	クルーミーティングの中で、高齢者虐待防止関連法と絡め、研修を実施している。これまでの活用実績もあり、資料を整備し必要時には活用に向けた支援が行えるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料や退去時等、重要な点は細かく丁寧に説明させて頂き、十分にご理解された上で契約を行っている。料金の変更等あった場合はしっかり説明を行い同意書による同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での連絡時にご意見やご要望を伺い、その都度職員間で協議し運営に活かしている。	法人全体で通信を発行し、行事等の様子を伝えている。日常の来訪時や電話連絡、健康管理に関する情報共有を図りながら、意見や要望の把握に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個々に意見を聞き、それを職員間で話し合い、管理者ミーティングで報告している。	職員ミーティングで出された意見や提案は、管理者ミーティングにて検討され、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各管理者による職員の評価を行い、実績が給料に反映されている。労働環境が良くなるよう代表も就業環境の整備に力を入れている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別関係なく幅広く人材採用を行なっている。定年退職後の嘱託雇用も行っており、職員のやりがいのある職場となるよう意見交換を行ない、早急に問題解決を行なっている。	常勤採用を基本とし、介護福祉士の資格を持つ職員も多い。ワークライフバランスプロジェクトを通じて、行政の表彰も受けている。キャンプや旅行、魚釣り等、職員間の交流機会も多い。母子寮が設置されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	関連施設全体で講習会をおこない、理念や方針、職員の心得など周知を図っている。	社会的な課題や事件をもとに、法人代表者の講話が行われている。理念や信条、行動指針等の浸透に努め、職員への人権教育に努めている。外部研修参加も期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修機会を設け、参加内容は他の職員に周知するよう徹底している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員とも交流が持てるよう懇親会や宿泊行事も開催している。他施設の職員と交流を持つことで、悩みの共有や解決等行っており、サービスの向上に繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自分の思いを上手に言葉に出来ない方もいる為、思いを汲み取ることができるようスキンシップを図り、信頼関係の構築に努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月のお手紙を通して入居者様の様子を伝えたり、様子の変化などは常に電話連絡をおこなっている。ご面会時にもゆっくりお話をする時間を設けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスについて入居者様とご家族様へ説明を行い、納得された上で導入し支援に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見を尊重し、過剰な介助は避けている。都度問題等あればミーティングを行い、認知症を理解した上で一人の人間としての対応を行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などがある際、参加を募ったり、毎月のお手紙や来所時、電話などで近況の報告や普段の様子などをお伝えしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、ご家族などへ手紙や電話連絡ができる環境を作っている。また、季節行事や思い出の場所へドライブに出掛ける等の支援にも努めている。	センター方式を用いたアセスメントを職員が担当し、馴染みの人や場所の把握に努めている。書信のやり取りをサポートし、馴染みの関係性が途切れないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室の掃除機かけや洗濯物たたみ等家事作業をして頂き役割を担う事で生活への自信に繋がる支援に努めている。介護度、状態に合わせて、入居者様同士が居心地のよい環境となるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退去された方や御家族様にもできることは協力させて頂く旨を常にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを汲み取ることができるよう常に言葉かけやスキンシップを図っている。外出の希望がある際は職員と一緒に外出できるよう検討を行っている。	センター方式も一部活用しながら、情報収集を行っている。困難な場合には家族の協力も得ながら、日々の会話や仕草、行動等から推し測り、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や御家族様の来所時等生活状況の情報収集に努めている。情報をもとに施設生活での役割や支援に繋がるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者とこまめにコミュニケーションを図り、日々の状態変化に気付けるよう努め、職員間で情報の共有を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や関係医療機関等情報の共有を行ない、協議した上で本人の意向を踏まえ無理のない介護計画を作成している。	担当職員がアセスメントやモニタリングに関わりながら、現状に即した介護計画の作成に努めている。また、実施表やモニタリングを通じて、現状の把握と見直しの必要性を検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でカンファレンスを行い定期的に見直しを行ない、第3者が見てもわかりやすい記録に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の日々の変化に応じてサービスを変更するか職員間で話し合いを行い柔軟な対応ができるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族様や地域活動等資源の助けを頂き、施設内の狭い社会ではなく、広い社会で生活できる支援に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望や状態により、了解の上受診先を決め適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時に、かかりつけ医の希望を確認している。複数の医療機関との連携を図り、訪問診療が実施されている。家族との情報共有は電話連絡や個別の通信を活用している。訪問看護との24時間の連絡体制が整備され、健康管理表が作成されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、定期的な看護師の訪問を行い、ひとりひとりの健康管理や職員の医療に携わる上での指導を受けている。また看護師から得た情報を主治医に報告する等連携にも努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院関係者やご家族と退院に向けて話し合い連携を図り、早期退院等対応できるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、ご本人と話し合いを重ね、本人の一番良い状態を考え支援を行っている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに説明し、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認と関係者間の方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回避難訓練を行い、その際救急隊の緊急時のレクチャーやミーティングなどで職員間の訓練、勉強を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様を交えて避難訓練を行っている。風水害時の避難についてもマニュアルの確認や協力体勢をとっている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。利用者の方々も実際に居室から避難される。今年度は近隣地域で水害が発生し、関連施設へ避難されている。毛布を用いた搬送訓練や、各種災害に応じた避難先の設定がなされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格を把握し、職員間で対応の統一や人介護支援に努めている。	日常生活の中で、選択の場面や個別の距離感を意識している。入浴時や排泄ケアの際には特に留意し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなかご自分の思いを言葉に出来ない方もいる為、その際は2択から選んで頂いたり、「はい、いいえ」で答えられる閉ざされた質問を行う等自己決定できる支援に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活のリズムを把握し、希望に添えるよう努力している。特に食事等食べれる時に、状態に合わせて食事を提供するよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや活動しやすい衣服の着用、身だしなみに努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に作る機会や盛り付けのお手伝いをして頂く等、食事が楽しみになるよう努めている。おやつと一緒に作る等レクの一貫として行っている。	時にはクッキングの日を設け、食事のプロセスに利用者が関わることもある。通常は半調理品も活用しながら、盛り付け等に力を発揮してもらっている。家族との夕食や誕生月のイベント等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録に残し、状況の把握や摂取管理が出来るようにしている。食事制限のある方には、状態に合わせて食事を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施により口腔内の清潔保持に努めている。ご自分で磨かれる方は磨き残しの確認を行ない清潔保持できている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の有無に関わらず、日中は言葉かけを行ない皆さんトイレで排泄を行なっている。排尿パターンを把握することで、皆さんトイレで排泄できている。	排泄チェック表を活用し、個々の状態やパターンに応じた声掛けや誘導を行っている。日中夜間ともにできる限りトイレでの排泄を支援している。水分量の把握やきな粉牛乳の摂取により、便秘予防に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、食事野菜を多く取り入れ便秘予防に努めている。日々の体操に腸の蠕動運動に繋がる動きを取り入れ実施している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めているが、入浴日に入らなかった方は後日入浴して頂く等清潔が保持できるよう支援している。また、週に1回は入浴剤を入れ、温泉気分が入浴を楽しんで頂けるよう努めている。	基本的な入浴日の設定はしているが、希望や体調、状況等に応じて、シャワー浴も含め、柔軟な対応に努めている。「湯の花」を用い温泉気分を楽しむ機会がある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入世者様の状態に合わせて、日中の静養を取り入れている。夜間入眠時は空調など調節し、快眠出来るような環境を提供している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師に助言、指示を頂き、薬の効果や副作用について職員一人一人がしっかりと把握するようにしている。薬が変わったときには様子観察を強化している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全てがレクリエーションと考え、家事作業や遊び活動等個々に応じて役割を担って頂き生活の楽しみに繋がる支援につとめている。季節を感じて頂けるよう行事の企画に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等季節を感じて頂けるよう支援に努めている。入居者様の希望に沿えるよう外食レシや買い物も行っている。	天候やその日の状況により、近隣の散歩や買い物など行っている。お花見の時期にはお弁当を作って出かけたり、イルミネーションを見に夜間のドライブも企画・実行されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員で行っているが、買い物時の支払いは入居者様にして頂き、お金の大切さや買い物できるという自信に繋がるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば電話をかけたり、手紙を書いたりして頂いている。毎年年賀状を家族様に送り、季節を感じたりできる自信に繋がる支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な空間作りに努め、臭いなどないように気をつけている。季節にあった料理の提供や季節を感じる飾り付けなどを行い、居心地の良い環境作りを行っている。	天井の高いリビングは開放感がある。日々の取り組み状況が伝わる掲示物や季節感のある作品が飾られている。職員は個別の過ごし方に配慮し、細やかな対応に努めている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、椅子も人数以上に置き、ご自分の席を決めずに好きな場所に座れるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様やご家族様と話し合い、ご自宅で使用していた棚等持参して頂き、ご本人が生活しやすい空間作りを行っている。	箆箆や椅子等の家具の持ち込みもされており、配置や動線に配慮しながら、安心して、居心地良く過ごせるよう工夫されている。書道作品や家族の写真等が掲示されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な介護は行わず、本人に合った生活リズムを職員間で把握し、できる事はして頂き自信に繋がるよう生活支援を行っている。		